

【女子100m予選】11秒85で予選を突破した福島千里(右)＝名古屋市・パロマ瑞穂スタジアム(大賀章好撮影)



福島 女子100 予選2位 決勝へ

陸上日本選手権

【愛知】ブラジル・リオデジャネイロ五輪代表選考会を兼ねた陸上競技の第100回日本選手権大会(日

本陸上競技連盟主催)が24日、名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムで開幕した。3大会連続の五輪出場を目指す福島千里(北海道ハitekA C―帯南商高出)は女子100m予選を全体2位の11秒85で通過し、25日午後8時20分開始予定の決勝に駒を進めた。(松村賀裕)

おり、再び好記録をマーク。関根花観(同)も派遣設定記録を切る31分22秒92で2位に入り、代表入りを有力にした。女子走り幅跳びは甲斐好美(VOLVER)が制し、初の五輪出場を決めた。

9秒台が期待される男子100mは予選と準決勝があり、桐生祥秀(東洋大)、山県亮太(セイコー)、ケンブリッジ飛鳥(ドーム)らが順当に25日の決勝へ進出。準決勝ではケンブリッジが全体トップの10秒25、山県が10秒26、桐生が10秒29だった。

男子では1方だけで優勝した大迫傑(ナイキ・オレゴン・プロジェクト)と2位の村山紘太(旭化成)が代表に決まり、棒高跳びで共に2位の萩田大樹(ミス)と山本聖途(トヨタ自動車)も代表入りの条件を満たした。

棒高跳び優勝の沢野大地(富士通)は、リオ五輪参加標準記録(5尺70)に届かなかった。

【女子】◇100m予選3組2着12決勝へ▽3組11福島千里(北海道ハitekA C―帯南商高出)11秒85・決勝へ

男子ハンマー投げで2年ぶりに出場した41歳の室伏広治(ミス)は前半3回の投てきで記録が伸びず、64尺74で12位に終わり、現役引退を表明した。

同400mでは昨年まで11連覇中だった金丸祐三(大塚製薬)が予選落ちした。

悪条件も笑顔で集中

悪条件の中、福島千里は順当に100m予選を突破した。全体1位は第2組で11秒80を出した世古和(CRANE)に譲ったが、第3組のトップでゴールを切り、安堵(あんど)の表情を浮かべた。

最後はスピードを緩め、向かい風2・1mと3組中で最もコンディションに恵まれない中、11秒85と全体2位のタイムでまとめた。

5月のセイコー・ゴールデングランプリ川崎は左太もも裏の違和感で欠場。今季の国内大会

4度目スタート難なく

は3大会連続で棄権するなど不安を残したが、今月5日のポーランドの国際大会では今季自己最高の11秒38をマークするなど調子は上向き。「緊張していたが、どのレースも変わらない緊張感。100mは100m。自分のレースをするだけ」と落ち着いていた。

100mの五輪参加標準記録(11秒32)を突破しているのは福島だけ。優勝すればタイムにかかわらず五輪代表が内定する。報道陣に終始笑顔を振りまき「きょうの走りを無駄にせず、あす(26日)頑張ろうと思う」。平常心で決勝に臨む。

(関係分)